

## 事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 3月 13日

事業所名 たんぽぽの家

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	利用人数や遊び方によって多目的室等を使い利用スペースを確保している。	コロナ渦の為、空間確保が困難な状況になる場合もあるが3階の多目的室を利用するなど分散している。
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	前日の終礼時や当日の朝礼時に確認するようにしている。	規定通りに配置されている
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	71%	29%	階段を使用する時には、バランスの悪い児童や発作を持っている児童に職員が常に付き添いながら移動するようにしている。	一階フロアはバリアフリーだが、上の階に行く手段が階段しかない
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%	利用者が帰宅後に清掃を行い、来所までにおもちゃ等も消毒も行っている。	常に人数が密にならないように配慮している。消毒をしている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	定期的に全体研修を行っている。	定期的なミーティングを行ったり、グループラインを活用し、必要に応じて個人的に面談を行うようにしている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	送迎時にも保護者と話しをするようにし意向を尋ねるようにしている。	行っている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	入社間もない職員にもアンケートを取っている。	毎年アンケート調査を実施している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%		行っていない
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	コロナ渦で研修は困難な所もあるがリモートで実施している。	毎年、時間の都合上、参加できない職員(パート)もいるが全体研修を行っている(年1回程度)
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%	保護者の希望、本人の意見を取り入れながら作成している。各職員相互の意見を出すようにしている。	利用者の状況に合わせ、職員の意見を出し対応するようにしている。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	対応職員の意見を取り入れるようにしている。	使用している。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%	本人の状況に合わせ項目を選択している。	設定している。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%		行っている。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	ミーティング等で話し決めるようにしている。	ミーティングを行い、各自のアイデアを出し合っている
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	子供たちにも何がしたいか尋ねたりしている。	当日の利用者の状況に合わせプログラムを考えている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%	0%		個別、集団活動を組み合わせながら作成している。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	86%	14%	申し送りノートやケース記録で情報共有を行っている。	朝のミーティングを活用し各職員の動き等を把握するようにしている。午後よりの出勤者に伝達できてない時があるが、申し送りノート等を活用し伝え確認するようにしている。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	申し送りノートやケース記録で情報共有を行っている。	送迎後の為、パート職員が帰宅し支援終了後に振り返り、打ち合わせが難しいところがある。申し送りノートやケース記録で情報共有を行っている。
	7	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	支援終了後にケース記録を書くようにしている。	業務時間内に書き切れないところがあるが、翌日の朝に書くようにしている。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	各職員からの意見も尋ねるようにしている。	定期的にモニタリングを行っている。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子ども等の状況に精通した最もふさわしい者が参画している	86%	14%		子供の状況を理解している職員が参加している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	86%	14%		必要に応じて行っている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	71%	29%		現在、医療的ケアが必要な子供はいないが以前は連携し支援していた。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	71%	29%		現在、医療的ケアが必要な子供はいないが以前は連携し支援していた。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%		現在保育所等を利用している利用者はいないが、以前は総理解を図っていた。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	お迎え時などに先生と話し情報を聞くようにしている。	総理解を図っていた。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%		必要に応じて施設におもむいたり、来てもらうようにしている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	100%	0%		コロナ渦の為、他の施設等の交流はない。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0%	100%	協議会での話を各職員に伝えるようにしている。	管理者が参加している。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	各職員が連絡帳係や送迎職員に子供の状況を伝えるようにしている。	連絡帳を通じ伝えたり、送迎時に話すようにしている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	100%	0%		必要に応じて行っている。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時に加え、請求時にも伝えるようにしている。	行っている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%		保護者からの同意を得て行っている。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	送迎時にも保護者と話しをするようにしている。	必要に応じて行っている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	86%	14%	イベント時に交流を図ってもらうようにしている。	コロナ禍の為、特別に保護者会として開催することは出来ていないが、夏祭り等のイベントに来てもらい交流を図っている。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	迅速に保護者と連絡をとり、各職員からも情報をとるようにしている。	苦情に関しては迅速に対応している。またミーティングなどで情報を共有し今後の対応などを話し合っている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	YouTube、Facebookを活用している。	活動予定については月初めに来月予定のプログラムのお知らせを配りお伝えするようにしている。またYouTube、Facebookに加え、必要に応じてlineアット等でお伝えするようにしている。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%		細心の注意をしている。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	利用者についてはカードや筆記で意思疎通を図ったりしている。	配慮している。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%	0%	芋ほりに行った時などに近隣の人に配るようにしている。	コロナ禍で行えていない。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%	0%		マニュアルについては職員に周知している。防犯については出入口が一か所しかなく不安なところがある。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	避難訓練に利用者も参加してもらい、一部の利用者には消化器の使い方も練習してもらうようにしている。	消防点検及び避難訓練は年二回専門業者の式の下、実施している。時間帯によって参加できないパートがいる。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%	服薬が確認できるようにマグネット等を使用し一目で服薬が分かるようにしている。	利用開始前に保護者から状況を聞き取り、各職員に伝えるようにしている。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	29%	71%		現在、対象となる児童は利用していない。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	すぐに共有できるようにグループlineを活用している。	現在はミーティングや送りノートで共有している。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	必要に応じてミーティングでも話し合うようにしている。	年一回全体研修を行っている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100%	0%		重要事項説明書や支援計画に記載し了承を得るようにしている。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。